

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400047		
法人名	特定非営利活動法人 リスペクト		
事業所名	認知症高齢者グループホーム碧水		
所在地	北海道雨竜郡北竜町碧水15番地の2		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年1月30日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400047-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、事業の透明性を図ることから、運営推進会議において業務の内容や人事についての悩みなど報告しており委員の皆様よりアドバイスを頂きながら事業運営を行っているところでございます。また、グループホームは地域密着との関係性も強く、地域に認められるよう積極的に地域の行事並びに自治区の会議や地域の草刈りなどに参加しております。地域の高齢化に伴い葬儀のお手伝いなども頼まれるようになってきており、これからも積極的に地域に向けてお手伝いができるように取り組んでいきたいと考えております。利用者やご家族の皆様のお気持ちを出来るだけ取り入れながら皆様に喜ばれるホーム作りを目指していきたいと思っており、利用者様がいつまでも安心してホームで暮らし続けていけるよう職員とご家族と一緒に考えながら協力していきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地域とのつきあい>
地域の人々と焼肉パーティやクリスマス会での交流や火災等の緊急時に協力等が得やすいように火災避難訓練に参加を呼びかけ協力体制構築に取り組んでいる。また、みどり団地の住民との日常的な交流、幼稚園園児の訪問や舞踊などのボランティアの受け入れ等で認知症に対する理解や啓発に取り組んでいる。

<普段は行けないような場所への訪問支援>
一人ひとりのその日の希望に沿って、旭山動物園見物や紅葉狩り、鮭の遡上見物やさくらんぼ狩りなど普段では行けないような場所への訪問で気分転換や楽しみごとの支援をしている。また、地域の盆踊りやお花見などの参加で馴染みの場所や人との交流が途切れないように支援している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が2つしかなかったので職員全員で3つ目の理念を作りあげました。理念に基づいて頑張っておりますが、地域の人々との触れ合いが、まだ少ないように感じており、積極的に地域へ溶け込む姿勢も必要と考えております。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自のケア理念をつくりあげ、日常業務や職員会議を通じて話し合い、共有して実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	焼肉パーティーやクリスマス会など地域の人々との交流を図り、地域の方々の慰問の受け入れなどを積極的におこなっており、日常的とまではいかないが、少しずつ地域の人々との交流が出来てきている	地域の人々と焼肉パーティーやクリスマス会での交流や火災等の緊急時に協力等が得やすいように火災避難訓練に参加を呼びかけ協力体制構築に取り組んでいる。また、みどり団地の住民との日常的な交流、幼稚園園児の訪問や舞踊などのボランティアを受け入れている。	今後は、事業所の持つ専門性を活かして、地元の人々に認知症に対する理解や啓発にさらに取り組んでいく計画があるので、その実践に期待します。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	冬の期間は、ホームの除雪だけではなく、交番や近所の高齢者の家の前の除雪を実践しており、地域の皆様に大変助かると喜ばれております。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、2ヶ月に1回、事業所の出来事など全て細かく業務報告しており、また、委員さんからもアドバイスをいただきながら運営が出来ており、感謝しております。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、防災対策や地域との協力体制構築等具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の福祉係とはお互いに信頼も厚く、困った事があれば、すぐ相談にも乗ってくれる体制にもなっており、また、逆に福祉係から聞いてくる事にも適切な対応をしており、何でも言い合える関係だと思っております。	町担当者との連携の重要性について認識し、日常的に相談や助言等を得ながら事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、基本的には当ホームでは一度も行っていません。職員会議の中でも身体拘束についての問題を読み、職員皆がこれが身体拘束になる事の認識をもってもらうなどの勉強会も行ってあります。少しずつではありますが、正しい理解に向けて身体拘束のないホーム作りに取り組んでおります。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部・外部研修参加等で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止については、ホーム内の内部研修として、テキストを用いて自己学習してもらい、職員同士、話し合い注意を払いながら、サービスの実践に努めております。また職員会議の中でも虐待に関する研修も全員で行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前後見人制度を利用した御家族の方よりお話を伺い、初めて後見人制度の事を御家族とお話する機会がありましたが、ホームとしては、特に契約を変更するといった事もなく、普段どおりの契約で支援しているところです。また、機会があれば外部研修などで学べるように心がけております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項より説明してから、契約をかわしております。特にお金が絡むため、問題となる入退院時の時の請求には神経をとがらし、十分納得されてから契約を結んでおります。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の代表者として運営推進会議に参加していただいていることや、意見箱・アンケート議事録の送付時に意見などがあれば、電話や郵便などで知らせてほしい等の取り組みを行っています。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように市町村等の相談窓口の掲示や意見箱を設置し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者として言わなければならない事は職員会議の前段に報告や連絡・内部研修会等を行っておりますが、職員会議は、職員の提案や、業務の議論をする場であるという考えから、自由に議案を出してもらい、業務の見直し等も行っております。	職員会議や職員間の連絡ノート等を通じて職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と施設長は日頃から、職場内の状況を密に報告を取るなどしており、公平な立場で、職員の意見などを聞くような環境作りにも努めております。人間関係の問題などは、感情論的な要素も強く、お互いの言い分を聞いてあげ、今何が問題となっているかを明確にして、良い悪いではなく、仕事としてどうなのかを両者より聞くようにしております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の外部研修の機会は1年に1回以上は受けてもらえるように順番に行っていたいております。また、介護福祉士等の資格にもアドバイスをしながら、挑戦してほしい等のお話もしてしており、内部研修なども各自が行い、サービスの向上に向けて頑張っているところです。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中空知地区のグループホームの職員交流が砂川市立病院の医療連携室が調整役となり、相互訪問を行っており、お互いのホームのいいとこどりをしようということから、今年度から本格的に始まっております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安などコミュニケーションを取りながら全員でセンター方式を用いて日々の生活に取り入れながら生活できるよう努めております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に家族の心配していることなど家庭訪問を行い聞き取りながら今後の方針等のアドバイスを行ってまいります。また家族の身になって考える姿勢で普段からも面会時等でも必要があれば家族と相談しております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族やご本人の悩みは意外と多くあり、利用者のご家族の関係がうまくいっているのかどうかを見極めながら心配事などに耳を傾け、その家族の抱えている課題などに適切なアドバイスを行えるように支援しております。また、ご本人の悩みなどもその時には言えなくても後で気様に努めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員として捉えており、自分の親だったらどうするかを常日頃から心がけております。また、利用者同士も同じ家族といった気持ちも芽生えており、入院した時は皆さんが心配するといった場面が見られています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援するのは本来の務めですが、ご家族の意見もきちんと聞き、勝手にホーム側の主導権によりサービスを展開するのではなく、例えば緊急に入院する場合、ご家族に連絡を取り、何処の病院が良いかを聞くなど可能な限り配慮しております。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族との関係では、当ホームは頻りに面会もあり、一人ぼっちになっている事はない状況です。また、以前住んでいた処の友人などが訪ねてくる等馴染みの関係は多いと思われます。	友人・知人の訪問支援や散歩、盆踊りなどの町内会行事等の参加を通じて、馴染みの人や場所との関係が途切れないように取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がいたわりながら生活している状況が見られています。一人ひとりの役割も構築されており、掃除担当や食事の後かたづけを手伝ってくれるといったお互いに支えあう気持ちが伺えます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期となり退去することになってからも、いつも家族の一員として考えており、入院先の医療相談員や、担当医師ともよく相談をしながら、次の入居先なども見極め、家族に心配をかけないように本人や家族に支援しており、大変喜ばれております。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者毎に一人ひとりの思いや意向を利用者本人や家族の意見を聞きながら把握し、連絡ノートに記載している。また、センター方式のアセスメントシートを3ヶ月毎に更新している。	センター方式の活用やモニタリングを通じて、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の生活歴や昔からなじんでいた生活を御家族様に書いていただき、介護計画の参考にしております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月に1回アセスメントを行い、その人の心身の状況や何ができて、何が出来なくなってきたかの把握に努めながら、毎日漠然と過ごすのではなく、1日を学園生活に置き換え、勉強するといった生活も取り入れながら取り組んでいます。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用開始時に暫定の介護計画を作成し、その後は利用者・家族等の意見を聞きながら1ヶ月で本計画を作り上げている。その後3ヶ月で見直し、以後、短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に見直ししている。また、「ケース記録」に介護計画関連記録の項目を設けて記録している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式を活用して本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、モニタリングを通じて現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録やバイタルチェック表を用いて、排泄の状況や血圧の状況、体温の状況など日頃から観察できるように、その日の記録だけでなく1週間前の状況などにも目を通しながら適切なケアができるように努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に即したその時のニーズを把握しながら、柔軟な支援が出来るように取り組んでいます。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑や花壇を作りながら、野菜を収穫したり、お花を觀賞したりして、それぞれが楽しめる環境作りを実践しております。また、夏期には盆踊り、冬期にはクリスマスパーティーなど、地域の行事にも参加しており、季節に応じ楽しんでいただいています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と従来のかかりつけ医を自由に選択してもらっている。ほとんどの利用者の通院支援をしている。医療機関からの情報は、個別の「医療連携記録」に記載し全職員で共有している。	協力医療機関や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の勤務は週1回午前中だけの勤務となっておりますが、皮膚疾患やバイタルチェックを行っていただき、適切なアドバイスを介護職員に行っていたりしております。また、夜間など相談したい時にはいつでも電話が出来る体制になっていることから介護職員にとっては安心のできる心強い存在となっております。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、いつもスムーズに市立病院側で対応してくれており、病状の説明や、入院期間などの説明もあり、また、退院時は必ず前もって電話連絡があり受け入れの準備もやすく、一週間に1階から2回程度病院に出向き様子を伺ってきております。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事の限界や身体状況を見極めながら、医療の面がこれから重要視されてくるとされる方については、ご家族に相談して、適切な病院や終末までの考え方を相談し、申し込みなどをしてきております。本来なら終末までホームで生活していただきたいと基本的には考えております。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	人命救助の方法について熟知したかという点はまだだといった感じですが、救急救命の方法の一部としてAEDの使用法や人工呼吸法の研修など毎年1回は出れる職員で研修を受けてきています。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の町内会と消防防災時において相互に応援が出来るように協定を結び、協力体制が確立できています。また、近隣住民の協力も得ながら避難訓練を年2回夜間を想定して実施しております。	火災等の緊急時に協力等が得やすいように火災避難訓練に参加を呼びかけ協力体制構築に取り組んでいる。また、夜間を想定した避難訓練を実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導において、その人の人格を尊重し記録などにおけるプライバシーにも配慮しながら、耳元で誘導できるように取り組んでおります。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないよう職員間で周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望やその思いをセンター方式を通して情報を職員間で出し合いながら自己決定していけるように取り組んでおります。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切に、職員側の都合で何でもしてしまう事のないように留意しながらサービスに取り組んでおります。今日はどのように過ごしたいかは本人が決められるように日課は固定していません。その人らしく生活できるように支援しております。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには普段から注意しており、化粧する事は女性にとっては生き甲斐ともなっており、可能な限り化粧を楽しんでもらっております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食材を聞きながら、献立作りを行っておりますが、年々ADLの低下もあり、調理を手伝ってくれる人はいなくなりましたが、後片付けやテーブル拭きなど行ってくれている人がおります。可能な限り継続できるように取り組んでおります。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら職員と利用者が、食事の準備や後片付け等一緒に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平均的に利用者の体重が年々増加傾向にあることから、朝のみレトルト食品を一昨年の11月より使用し、カロリーの軽減に努めております。以前より体重の伸びは比較的に軽減されてきているようです。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後の口腔ケアは毎回行い、口腔内の清潔保持に努めております。一昨年の1月30日には深川保健所が講師がこられ、口腔ケアについての研修を利用者と一緒に行って勉強しております。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を個別に捉えるため、排泄チェック表を使い、出来るだけ家族の経済的負担を軽減できるように努めており、排泄用品の使用頻度を極力抑えて支援を行っています。	排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便の状況を把握して、定期的を受診し、必要があれば、適切な排便方法を医師とともに取り組んでいます。しかし、それでも便秘傾向となりやすい方については再度受診し医療的な指導と方法についてアドバイスをもらい取り組んでおります。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴は出来る体制を取り、自分で入りたい時にはいつでも入れるように毎日入浴ができるように取り組んでいます。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が希望すれば毎日でも入浴が出来るように希望にそって支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中や夜などは、その方の睡眠時間や、日中、気持ち良く疲れないよう、昼寝が取れるように個々の状況に合わせて眠れるように取り組んでおります		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は全てにおいて管理をしており、一人ひとりの要望にこたえられるように目薬をさしてほしい要望があれば可能な限りは自分で出来るように指導しながら、出来ないところ目に向けて、要望があれば、介護員が支援しております		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課は特に決めてはおりませんが、おおむね生き生き学園というプログラムを設け、その日の気分にもよりますが、勉強したい時にはいつでもできる体制を取りながら、思い思いに自分たちで考え行動するといった行事が出来るように取り組んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬場の外への散歩はなかなかできていないところですが、春から夏にかけては、可能な限り屋外にドライブに出ている。地域の行事にも参加して楽しめるように支援しております。(盆踊り、お花見等)	一人ひとりのその日の希望に沿って、旭山動物園見物や紅葉狩り、鮭の遡上見物やさくらんぼ狩りなど普段では行けないような場所への訪問で気分転換や楽しみごとの支援をしている。また、地域の盆踊りやお花見などの参加で馴染みの場所や人との交流が途切れないように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理している方は少数ですが、管理できている方はなるべく大金は持たせないよう家族にもお話を理解を得ているところ。近くのコンビニやスーパーなどにも職員と一緒に出かけ、自分の買いたい物を買ってこれるように声掛けし、買い物にでかけています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人から頼まれた場合は電話の取り次ぎを行っています。手紙を書くという習慣の方は、手紙についての支援は今のところ現状として行う機会がありません。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、趣向を凝らし、硬いイメージがないように配慮しています。温度管理や採光などにも日中でも共有部分はいつでも明かりをつけており、不安のないような取り組みを心がけております。	1ユニット平屋建ての事業所で共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)では、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。また、生活感や季節感を採り入れて、椅子やソファの配置で本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で利用者同士が会話できるよう目配りを行いながらいつでも利用者同士が話せるような環境作りに取り組んでいます。お茶を出したり、コーヒーを一緒にのんでもらったりとコミュニケーションがとれるような雰囲気作りにも努めています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、可能な限り自分の家で使っていた物を持ってきていただき、自分の家と同じ様な環境をご家族に作ってもらい、生活できるように支援しております。	居室は広く、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式等を使い出来る事や解る事のシートをそれぞれ使いながら、現状の能力の理解に努めております。何でもしてあげるのではなく、どこができなくなってきたのか、また、どこが分からなくなってきたのかを見極めながら支援しているところです。		

目標達成計画

事業所名: 認知症高齢者グループホーム碧水

作成日: 平成 25年 1月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員の研修の機会の確保。	年間の研修計画に基づき内部研修を充実させていく。	より具体的な研修計画により利用者の尊厳を大切にしながら内部研修をしていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。